

～ご家族との別れに寄り添う支援～

・・入所施設における取組から・・

秦野市
社会福祉法人かしの木会 ぐず葉学園
支援員 大久保華奈子

1 はじめに

秦野市にある知的障がい者の方の入所施設「ぐず葉学園」は創設 33 年を迎えます。利用者の方の高齢化と共にそのご家族の高齢化も進んでいるため「別れ」を迎える機会が多くなってきています。入所施設ではありますが「我が子が迷うことなく安心して暮らせるように」との親御さんの強い想いでつくられた施設の背景に、我が子に別れをどう伝えるか、別れを理解できるのか、葛藤する家族の意向とそれに伴う本人の変化、そして、支援者として悲しみを共感しながら寄り添う支援とは何か？これまでの事例を通じた報告をさせていただきます。

2 事例 1

「お父様が亡くなったことを本人には伝えないで欲しい、母の意向」

S さん男性 59 歳、重度知的障害、支援区分 6、父母ともに保護者会などに積極的に参加され、月に 1 回必ず S さんに会いに来ていたが、お父様が病気で亡くなられてからはお母様の来園機会も減り、代わりに弟さんが S さんに会いに来るようになる。

お母様は S さんに伝えるとショックを受けてしまうので絶対に亡くなったことを伝えないで欲しいとの意向が強かった。しかし、S さんは代わりに来園する弟さんに対して「パパ？パパ？」と問いかけが多く、不安気な S さんの姿に戸惑いを見せていました。親の意向と兄弟としての葛藤が弟さんにはありました。S さんは普段の施設内でも支援員に対して「パパ？ママ？」という発言が多くなり支援員はどうすることもできずに話を逸らすことしかできませんでした。

重度の知的障害のある S さんですが、お父様が亡くなられてから明らかに何かを感じているという様子が伺えました。そんな S さんを見て弟さんが「やはりしっかりと本人に伝えた方が良い」という想いが強くなり、お母様を説得され、3 ヶ月くらい経っていましたが、お父様の死を弟さんが S さんに伝えました。

伝えた当初、さびしげな表情で窓の外を眺めている S さんの姿に支援員としてそっと寄り添うことしかできませんでした。「パパ？」という問いかけはいつの間にか「ないない」という発言に代わり S さんなりにお父様の別れを受け入れたように思います。1 年経過した頃からは表情も明るくなり好きな DVD を観たり、笑顔が多くなり、「ないない」という発言もなくなり以前の S さんに戻っていました。

事例 2

「いずれ来るお母様とのお別れの準備をしっかりとって欲しい、母の意向」

I さん女性 68 歳、軽度知的障害、統合失調症、支援区分 3、お母様はご自分が高齢なために何れ来

る娘との別れに備え、娘にしっかりと心の準備をして欲しいと意向がありました。それはIさんが30代のころにお父様がお亡くなりになった時に、ショックが大きく統合失調症を発症して精神科に通院することになった過去の苦い経験から、お母様自身がお自分の時には、娘にあの嫌な思いはさせたくないとの思いが強かったからです。

お母様が入院されてからは2人のお姉様が代わってIさんに会いに来てくれました。お母様の体調を心配するIさんと一緒に病院へ面会に行ってくださいIさんをフォローしてくれました。また、突然、Iさんがお母さんを心配して「お母さん」と叫んで泣いてしまうことが施設内でもしばしば見られるようになり、支援員がカウンセリングという形で寄り添いIさんの心のケアに努めたりしました。

その準備期間の甲斐あってお母様の意向通り、Iさんが悲しみに耐え、母の死を受け入れて葬儀全てに参列できたことはIさんにとって大きな経験になったと思います。支援員もその過程の中でIさんと一緒に悲しみを共有できたことは本当の意味での寄り添う支援が少しはできたと思います。亡くなられてから半年、1年と経過する中でIさんが「淋しい」と泣くこともあります、「私には姉が2人いる、大丈夫」と自ら切り替える強さも現在では伺えています。

3 考察

ご家族のご意向の違いによって、その後の支援にどのような違いがあったのか、またどのような過程を経て、ご家族との別れに向き合ってきたのか、この事例を通して振り返ってみました。障がい者を抱えた家族のこれまでの歩みはもちろんそれぞれに違います。「最後くらいはお別れに立ち会わせて欲しい」「理解はできなし、迷惑がかかるから会わなくていい」残されたご家族の意向は様々です。別れの仕方はご家族のご意向に沿うというとても難しい部分があるからこそ、今後増えていく「別れ」において、利用者ご本人の意向はどうか、どのように向き合っていけるのか、ご本人の気持ちの変化を汲み取り、悲しみを共有、共感し、時間をかけて安心していただけるよう、寄り添う支援ができればと改めて思います。

4 おわりに

入所施設であるため共に長く暮らした仲間との別れもここ数年で多くなってきています。仲間との別れを悲しむ利用者の方はもちろんいます。時間を経て悲しい気持ちを表す方もいます。人には「別れ」があるということの心の準備を利用者の方には伝えていきたいと思います。